# あ　い　さ　つ

河北町教育研究所　所長　原 田 正 明

今年度から第７次山形県教育振興計画（７教振）がスタートしました。『ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり』を目標に、新たな試みとして、目標の実現のために「県民みんなでチャレンジ」として『体験』『探究』『尊重』『協働』の４つの重点的取り組みを掲げています。特徴的なのが子どもたち、家庭（保護者、家庭の皆様）、地域の大人（地域、企業・ＮＰＯの皆さま）の視点でこの「県民みんなでチャレンジ」がまとめられていることです。それぞれが自分事としてとらえ、挑戦していくことがウェルビーイングにつながるというもので、これまでの振興計画とは大きく異なります。それぞれの学校においても、、これまでの考えを転換し、７教振に沿った取組みを始めようと模索した１年だったのではないでしょうか。ぜひ、学校だけで完結しようとせず、子どもたち、家庭、地域の大人を巻き込んで、様々な取組みを仕組んでいきましょう。

さて、本研究所は今年度、町の抱える様々な課題や小学校統合を見据えて、事業内容を大きく変更しました。まずは、夏の半日研修を町内の教職員が一堂に会し、実施することにしました。町内の教職員が、教育委員会や教育研究所の方針を知り、ベクトルを同じにして、町内の子どもたちの教育を担うことはとても大切なことだと改めて感じました。また、小小連携の視点から、各小学校の同学年の先生方が集まり、授業について情報交換をする時間をとりました。町内の小学校も児童数の減少で単学級や複式学級が多くなり、同じ学年の先生に相談できない状況にあった中での実施でしたので、情報交換はもちろん、その後の授業研などでもその効果が表れたと思います。コロナ禍以降、なかなか直接会って情報交換をしたり、相談したりする機会が減っていましたが、やはり、直接会って話をすることの意義を感じることができたのではないでしょうか。さらに中学校は谷地高校の黒木晃校長を講師に、高校入試改革について学習する機会を設け、教職員の理解を深めました。その結果、今年度の３年生のうち半数を超える生徒が前期特色選抜に挑戦しました。

また、今年度の公開授業研究会は河北中学校で実施し、音楽（１年）、道徳（２年）、社会（３年）を公開しました。研究テーマを「生き生きと学び、自立に向かう生徒の育成」をかかげ、視点として「表現力を高める言語活動の工夫」として研究を進めてきました。事前研究会も複数回行うなど、全校体制で研究を進める中で、「問い返し」をキーワードにした授業づくりを行いました。２学期始業式には全校生徒に対し、研究主任が学校研究について説明し、生徒と一緒に創る授業を目指しました。研究会当日の授業では、義務教育９年間のゴールの姿を町内全教職員が参観することで、それぞれの学年でどのような資質・能力をつけなければならないか考えるきっかけになったのではないかと思います。本町としても、学力向上と授業改善という大きな課題を抱えております。町教育委員会も若手教員の授業力向上のために、『授業について考えよう会～算数編～』を毎月実施（任意参加）し、指導主事の先生方と一緒に勉強する機会も設けていただきました。町教育研究所としても、これからも町教育委員会と連携しながら、様々な課題に対応しながら、河北町の子どもたちの育ちを支えていければと思います。

最後になりましたが、本研究所の様々な活動を実施するにあたりご指導いただきました講師の皆様、そして、ご支援ご協力をいただきました村山教育事務所、町教育委員会はじめ関係各位に心より感謝申し上げます。